

資料3

既存施設の活用について
（小・中・高等学校等との
一体型の連携）

青森県教育庁学校教育課

小・中・高等学校等との連携類型



（イラスト）インクルーシブな学校運営モデル事業概要資料（文部科学省）

一体型	特別支援学校と小・中・高等学校等が、 <u>同一の校舎内に</u> 設置されている形態 （小・中・高等学校等の空き教室等を活用して、特別支援学校の分校や分教室としている場合を含む。）
併設型	特別支援学校と小・中・高等学校等が、 <u>同一の敷地内に</u> 設置されている形態
隣接型	特別支援学校と小・中・高等学校等が、 <u>近隣（同地区等）に</u> 設置されている形態 （既存の学校間で連携するイメージ）

一体型における成果 ～他県実施の調査結果より抜粋～

【児童生徒】

- ・ 日常的な交流及び共同学習、「交流」から「共同学習」への発展
- ・ 心のバリアフリーの推進、他者への理解や寛容性の高まり
- ・ 相手に伝わる伝え方の工夫 など

【教員】

- ・ 専門性の相互向上と学校間の相互理解（合同研修会や教科研究等）
- ・ 小中高での教育相談や支援方法の相談等での特別支援学校との連携
- ・ 特別支援学校のセンター的機能の活用促進
- ・ ユニバーサルデザインへの意識醸成・授業づくり
- ・ 多様な学びの場の提供 など

【保護者等】

- ・ 共生社会の形成に向けた障がい理解の促進 など

一体型における課題 ～他県実施の調査結果より抜粋～

- 両校の学びを保障するための環境整備や教育課程の工夫
- 施設面での調整の難しさ（特別教室の割り当てなど）
- カリキュラム（時間割）や年間計画の調整の難しさ
- 特別支援学校側の在籍者数が増加した場合、全体の教室不足が生じる可能性がある。元々の小・中・高等学校等への影響が生じる。
- （特に設置者が異なる場合）人的配置（管理職、養護教諭 等）
- （分校や分教室の場合）本校との情報共有の難しさ など

※一体型と共通する内容は割愛

【成果】

- ・両校の教育資源（教材や備品等）の相互活用による教育活動の充実

【課題】

- ・学校が離れているため、対面での情報共有の難しさや学校間交流の移動に係る費用の制限等
- ・設置者の違い（県立と市立）による情報共有の手段の差異
- ・隣接する学校によっては、年齢差のある学部の児童生徒との関わり方（例：小学校と高等部）
- ・交流の場面や交流する児童生徒が限定的（行事のみ、生徒会のみ等）、交流後の関わる機会の少なさ
- ・開催場所の調整 など